

1 「いのち」を大切にすることを育む教育の推進

- ◆「いのち」を大切にすることを育む
  - 「いのちの授業」を受けた作文を募集、大賞の表彰式を実施
  - ハンドブックの活用による「いのちの授業」の推進
- ◆人権の尊重、いじめの未然防止、課題を抱えた児童・生徒への支援
  - スクールカウンセラーを配置（全公立中学校175校（除政令市）、県立中等教育学校2校、県立高校拠点校61校⇒73校（12校増））
  - スクールソーシャルワーカーを配置（教育事務所36名⇒42名（6名増）、県立高校25名⇒30名（5名増））
  - 「かながわ子どもスマイル(SMILE)ウェブ地域フォーラム」等を開催、いじめのない学校づくりの取組事例の情報交換等を実施
- ◆規範意識と公共の精神の醸成に向けた道徳教育の充実
  - 指導方法の研修講座等を開催し各地域の特色を生かした道徳教育を推進

2 生きる力を育み、学び高め合う学校教育の推進

- ◆確かな学力の向上とキャリア教育の実践・職業教育の充実
  - 確かな学力向上のため、組織的な授業改善や生徒学力調査を実施  
 <県立高校改革実施計画（I期）>
  - 「かながわ学力向上実践推進事業」として、学習指導要領の定着状況の検証及び児童・生徒の学習状況の把握を行うために、神奈川県公立小・中学校学習状況調査を実施
  - 組織的な授業改善の一層の推進のため、授業力向上推進重点校（6校）を指定し県立高校改革実施計画（I期）>
  - 高校生・大学生を対象に、自身のライフプランをデザインする機会を提供するための普及啓発を実施
  - 各県立高校で「キャリア教育実践プログラム」を作成し、生徒ニーズ等を踏まえたキャリア教育の推進
  - 企業連携による商品開発、ものづくりマイスターや技能五輪出場選手の高校への派遣等の県立高校での専門教育の推進
  - 学習意欲を高め、学びの質の向上及び課題解決を図るため「かながわ学びづくり推進事業」を実施
- ◆遊び・運動の奨励、健康・体力づくりの推進、食育の普及啓発
  - 高校における未病学習教材を活用した試行授業の実施
  - 子どもの未病対策応援プログラムの実施
  - 小学校教諭、幼稚園教諭等を対象とした「子どもの未病」指導研修の実施
  - 子ども☆キラキラプロジェクトの実施
    - ・体力向上キャラバン隊及び体力向上サポーターの派遣
    - ・オリンピック・パラリンピック教育学習教材の活用
  - 「かながわ産品学校給食デー」や「かながわ学校給食地場産物利用促進運動」を実施
  - かながわ食育フェスタの開催
- ◆国際バカロレア認定校の設置、「逆さま歴史教育」などによるグローバル人材の育成
  - 外国語指導助手の全県立高校への配置  
 <以下5項目は、県立高校改革実施計画（I期）>
  - 教育特使として高校生をメリーランド州と台湾新北市に派遣
  - グローバル教育研究推進校（6校）の成果を全校へ普及
  - 国際バカロレア認定校の設置を目指し、横浜国際高校を推進校として準備
  - 生徒の英語力向上のため、英語資格等8,000名分の試験受験料を半額補助
  - 逆さま歴史教育の研究結果をまとめ、普及、啓発を実施
- ◆ICTを活用した効果的な授業等による情報化に対応した人材育成
  - 県立高校等へのタブレット型端末の整備
  - ICT支援員の配置による授業へのICT活用の推進
- ◆インクルーシブ教育の推進、特別支援教育の充実
  - 小・中学校において、すべての子どもができるだけ通常の学級で共に学びながら、必要なときに適切な指導を受けられる「みんなの教室」モデル事業（4市町、7校）における実践研究の成果の普及
  - インクルーシブ教育実践推進校（パイロット校）に指定した県立高校3校で、知的障がいのある生徒の2年生への進級を踏まえた、ともに学ぶための授業づくり<県立高校改革実施計画（I期）>
  - 医療的ケアを必要とする児童・生徒を支援し、より安全に学べる環境の整備を図るため、看護師を6人増員し、県立特別支援学校に配置するとともに、小・中学校への支援を推進
  - インクルーシブ教育推進のため、フォーラムを県内の2地域で開催
  - 高校等における通級指導の充実に向けて、指定校3校を指定し取組を推進  
 <県立高校改革実施計画（I期）>

3 豊かな学びを支える教育環境づくり

- ◆意欲と指導力のある教職員の確保・育成
  - 優秀な受験者の確保に向け、特別選考を実施
  - 教員志望者を対象とした「かながわティーチャーズカレッジ」を2つのコースで実施
  - 新たに策定した「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」及び、教員研修計画を踏まえた研修を実施
- ◆小中一貫教育校の導入、県立高校の再編・統合
  - 公立高校と私立高校が協力し「神奈川の高校展」を開催
  - 小中一貫教育校連絡協議会や小中一貫教育サポートデスクなどを設置し、小中一貫教育を推進する2町をパイロット地域に指定し、支援
  - 5校のクリエイティブスクールで、学び直し、キャリア教育、教育相談、進学支援などを実施<県立高校改革実施計画（I期）>
- ◆安全安心で快適に学べる教育環境の整備、教員が生徒に向き合う時間を確保できる環境づくり
  - 「県立学校施設再整備計画」（新まなびや計画）により、県立学校の総合的な施設整備を実施
    - ・県立学校における耐震・老朽化対策の実施
    - ・県立学校のトイレの洋式化を平成35年度末までに完成
  - 「業務アシスタント」を県立学校全校に配置
  - 「学校経営アドバイザー」を市町村立小・中学校5校に派遣
  - 原則、週当たり平日1日以上、週休日1日以上の部活動の休養日を設定
- ◆地域の方や企業の協力による、学校教育支援の取組みの推進
  - 退職教員や民間企業等の地域人材を活用した「ハイスクール人材バンク」の実施
  - 「県立高校生学習活動コンソーシアム」に係る連携機関の拡大及び学習プログラム等の充実を推進<県立高校改革実施計画（I期）>

4 子ども・子育て、家庭教育への支援

- ◆幼児期の教育・保育環境、小学生の放課後対策の充実
  - 保育所等の整備
  - 放課後子ども教室に対し、設置、運営経費の一部を補助（県内25市町村123か所）⇒県内25市町村146か所に拡大（除政令市・中核市）
  - 放課後子ども教室を担うコーディネーターや教育活動推進員等を対象とした研修会を4回実施
  - 早朝の子どもの居場所づくりを1町2か所（放課後子ども教室の内数）で実施
- ◆地域や企業の理解・協力による、家庭教育の支援
  - 学校・事業者を通じて、保護者・従業員に家庭教育啓発資料を配付
  - 市町村における家庭教育支援事業の一部経費を補助
- ◆高校生等の一人ひとりの家庭環境に応じた就学支援
  - <高等学校奨学金>学業等に意欲があり、学費の援助を必要とする高校生等への奨学金の貸付
  - <高校生等奨学給付金>授業料以外の教育費の負担軽減のため給付額を拡充して実施
  - <高等学校等就学支援金>授業料の負担軽減のため実施
  - <私立高等学校等生徒学費補助金>私立高等学校等授業料の負担軽減のため実施

5 様々な学びを通じた地域の教育力の向上

- ◆コミュニティ・スクールを活用した地域の教育力の向上
  - 1市1町をモデル地区として、地区内すべての小・中学校においてコミュニティ・スクールを推進するための体制づくりの研究を推進
  - 平成31年度までにすべての県立高校をコミュニティ・スクールに指定するため、県立高校76校（新規50校）に導入  
 <県立高校改革実施計画（I期）>
  - 県立高校の取組を参考に、特別支援学校4校をモデル校としてコミュニティ・スクールを導入
- ◆学校を地域の核とした、地域の学習、社会参加や貢献の機会の充実
  - 県立学校公開講座18校21講座、県立社会教育施設公開講座3施設6講座実施予定（それぞれ1講座増）
  - 社会教育主事等を対象とした、様々な課題に対応するための人材を育成するコース別研修を実施
  - 地域の事業所などと協力して、地域の防犯や防災に協力する活動、地域の環境美化に関する活動など、学校の特色や学科の専門性を生かした地域貢献活動を引き続き実施
  - 地域学校協働活動推進事業として、登下校の見守りや学習支援等、幅広い地域住民等の参画によって様々な活動を実施
  - 地域未来塾推進事業として、学習支援が必要な中学生等に対して学習習慣の確立と基礎学力の定着を促進することで、貧困対策の一翼を担う取組を推進

6 文化・芸術やスポーツ活動など生涯学習社会における人づくりへの支援

- ◆マゲカル（マグネット・カルチャー）の取組みの展開
  - マゲカル・パフォーミングアーツ・アカデミーの運営
  - 歴史的建造物等を活用したマゲカル事業の実施
- ◆社会教育施設における生涯学習の機会の充実・文化遺産の保存・活用
  - 博物館等の社会教育施設における展覧会、調査研究などの実施
  - 神奈川県図書館情報ネットワークの整備による県民への情報提供の充実
  - 「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」を踏まえた再整備に向けた取組を推進
  - 川崎図書館を「ものづくり情報ライブラリー」としてかながわサイエンスパーク（KSP）に移転・開館
  - 「神奈川行政資料アーカイブ」の充実
  - 国・県指定文化財等の保存修理・整備等に関する補助を実施
  - 中学生を対象とした文化財保護ポスター事業を実施
- ◆伝統芸能の継承者の育成支援
  - 伝統芸能ワークショップ事業の開催
  - 民俗芸能の記録保存のため現地調査委員会を立ち上げ、調査を実施
- ◆オリンピック・パラリンピックを見据えたアスリートの育成、県立体育センターの再整備
  - 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への出場が有望なアスリート及びその指導者を育成  
 （オリンピック：選手80名、指導者7名を助成）  
 （パラリンピック：選手35名、指導者2名を助成）
  - 体育センター等建物の新築工事、陸上競技場スタンドの改修工事等を実施
  - スポーツ関連施設は、平成31年度末までに完成予定
- ◆かながわパラスポーツの普及
  - 「かながわパラスポーツフェスタ」を県内3か所で開催
  - 「かながわパラスポーツコーディネーター」養成会の開催
  - 県立高校等（5校）でパラスポーツのアスリートによる講演やパラスポーツの体験授業の実施
  - パラスポーツ種目を体験するスポーツ教室を県立特別支援学校全校で実施
  - 神奈川県障害者スポーツ大会の開催
  - 神奈川県初級障がい者スポーツ指導者及び障害者スポーツサポーター養成講習会の開催